デジタルが当たり前に使えるコンサルへ。テックを通じて実現したいのは、DTCの財産である、人の付加価値を上げること。

国際社会が抱える課題を、解決したい。NPOやNGO、さらには国まで巻き込んで、ビジネスの側から、インパクトを持って。

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社(DTC)

2018年秋入社
コンサルタント
丹波 小桃

SDGsに代表されるように、企業は社会課題解決の「支援者」から「実行主体」へとその期待役割が変化しています。そのような世の中において、学生時代から初志貫徹で、国際的な社会課題の解決に貢献するのが私の夢だったので、いまのSocial Impact Officeでの仕事には満足しています。ただ初めから専門的なテーマだけで仕事をしてきたわけではありません。1年目にはテック系のチームにも所属していたんですよ。専門用語の単語帳をつくって、本を読み必死にキャッチアップする日々でしたが、いまの仕事にもそうした知見が生かされており、多様なキャリア設計ができる環境に感謝しています。

×

2016年入社
シニアコンサルタント
松崎 脩理

入社1年目からDigitalのチームにアサインされ、キャリアを積んできました。常に最先端の技術に触れ、それをいかにビジネスに活用できるかということを考える仕事のため、刺激的で全く飽きがこないですね。dXの構想策定からソリューション開発まで上流・下流問わず幅広くDigital関連案件に従事してきました。その経験を活かし、現在は「Deloitte dX Garage」の立ち上げメンバーとして参画してDigitalを活用した新規事業開発を行っています。

Q1 なぜ、あなたはコンサルタントを志望したのですか？

松崎　学部で物理学を学び、それを土台に大学院では電子線加速器について研究していました。研究自体はとても好きで、誰にも負けないぐらい熱意を持って取り組んでいましたが、働くのであればその熱意を周囲とも共有しながら働きたいと思いました。淡々と敷かれたレールの上を進むのは嫌だったし、周りともっと切磋琢磨したいという気持ちがありました。研究分野以上にそのような人たちが集まっているのがコンサル業界だと知り、進路を切り替えました。

丹波　私は、学部、大学院と国際開発学を専攻しており、特に、ビジネスサプライチェーンの中の労働者の人権保障について研究していました。学生の頃は、国際協力の現場で働くことに憧れを抱いていましたが、経済格差の解決にはビジネスの存在が切っても切り離せないと気づいたことから、企業の中からビジネスを変えたいと考えるようになりました。また、大学院でビジネスとサステナビリティについて研究をしていた時、多くの関連レポートがコンサルティングファームによって執筆されていることを知りました。国連やNPOやNGOのような立場からの課題解決も重要ですが、ビジネスの内側から変革を生み出すのなら、コンサルティングだと考えるようになりました。

Q2 数あるコンサルティングファームの中でDTCを選んだ理由は？

松崎　秋のインターンに参加して、デロイト トーマツ コンサルティング(DTC)社員の熱量や優秀さにとても驚きました。面接でも同じような感覚を抱き、他のファームと比較しても会社全体が前向きで、目的に向かってエネルギッシュなのを感じました。「3年後の自分の姿が想像できない生き方がしたい」という想いが実現できる環境を探していましたが、DTCならそれが叶うと確信しましたね。5日間のカリキュラムでしたが、先輩社員がひとつひとつ丁寧に学生を指導してくれて、若者を教育する文化が浸透している印象もありました。

丹波　私はイギリスの大学院に留学していたため、日本の学生とは就活のタイミングが違ったことから、ボストンまで飛んで海外採用フォーラムに参加しました。時間に制限もあったので、総合コンサルティングファームのBIG4に絞って受けました。松崎さんのおっしゃる通り、DTCは時間もお金もかけて人を育てるカルチャーなのだと感じました。サークルではなく部活のような、良い意味での上と下の関係があって、先輩が後輩をきちんとケアしているという印象でした。複数内定がありとても悩みましたが、短期間でどれだけ成長できるか、という点でDTCがベストだと思いました。

Q3 実際に働いてみて発見したコンサルティングファームの面白さは何ですか？

松崎　とにかく成長スピードが速いです。私がTech系にアサインされたからというのもありますが、2年目の時点で、あるソフトウェアに関しては社内で私が一番詳しいという状態になりました。チームリーダーとしてメンバーを率い、ビジネスの最前線でクライアントと二人三脚でプロジェクトを推進する。刺激的でまったく飽きがきません。私は当初、ヘルスケア領域で働きたいと希望を出していましたが、Tech領域で良かったと思います。Techは日進月歩でそれぞれのプロフェッショナルがまだ少ないため、コンサルタントの活躍の場も無限にあります。

丹波　私はいまSocial Impact Officeという、社会課題解決に関するコンサルティングを行うチームにいるのですが、少しずつであれ社会にポジティブなインパクトを生み出せている実感があります。例えば、我々のチームが取り組んでいるテーマとして、SDGsのターゲットにも含まれる「児童労働」の撤廃が挙げられます。具体的には、チョコレートの原料であるカカオに関して「児童労働がない地域(Child Labor Free Zone:CLFZ)」の認証制度を設立し、その地域で生産された製品は関税が減免されるという国際通商ルールの策定を加ーナ政府、NGOと共に進めています。これにより、児童労働を用いない企業の方が「儲かる」好循環を作り出し、経済合理性のリ・デザインをすることがねらいです。これが実現できればコーヒー、コットン、パームオイルなど他の産品にも展開していくことも考えられます。期待以上に、コンサルタントは国際協力や人権問題にも価値が導出できる仕事でした。

Q4 DTCの魅力や特徴を教えてください

松崎　デロイトではグローバルで「dX(Digital Transformation)」を急速に推進している最中です。Digitalを活用してコンサルタント自身のdXを図り、より高付加価値のサービスが提供できるようになる。私が立ち上げにも参画した「Deloitte dX Garage」というチームは、まさに日本オフィスのdX実行部隊です。コンサルタントである私、データサイエンティスト、エンジニア、UXデザイナーというバックグラウンドの異なるメンバーが集い、Digitalを活用した新規事業や新サービスを立案しています。先鋭的な取り組みに積極的なファームです。

丹波　私たちSocial Impact Officeが行っているコンサルティングサービスのプロボノ提供もビジネスフィールドで培われた専門知を社会に還元するという点で、DTCの哲学を象徴しています。社会課題と現場で向き合っているのは、多くがNPOやNGOのような潤沢な予算を持たない組織です。彼らと協働しビジネスがいかに課題解決の一端を担うのか、日々議論しています。実は私も1年目はテクノロジー領域に配属され、新領域で右も左も分からず挑戦の毎日でしたが、今や社会課題解決もテクノロジー導入なくして語れません。新人時代の経験は生きています。

Q5 いま、コンサルタントとして目指している姿を教えてください

松崎　社内における現在のチームもそうですが、対外的にもますます多様な人材交流が増えていくと思います。そこで、クライアントへの価値提供につながる架け橋になること。職種やバックグラウンドが違えば、思考も価値観も文化も異なってくる。当然、私も多数のアンテナを張る必要に迫られますが、それを楽しみながら、大局的にはもう一度「Japan as No.1」に貢献できるビジネスパーソンでありたいです。

丹波　デロイトのグローバルでは(国内でも一部)、クライアント企業が直面しかねない人権への負の影響を特定し、防止・対処・監視する「人権デュー・デリジェンス」という機能をコンサルティングサービスとして提供しています。コンサルティング業のNGO・NPOへの無償提供はプロボノとして継続しながらも、長期的には社会課題解決のノウハウをサービスラインにして収益化できる構造をつくりたいと思っています。あとは、DTCの人を育てるカルチャーを継承して、後輩育成にも携わりたいですね。

Q6 あなたにとって「これからの良い仕事」とは何ですか？

松崎　自分の仕事によって、明るく前向きな社会をつくっていけること。素朴かもしれませんが、仕事の究極目的はそういうことなのでしょうね。でも、必ずしも意識高い系でなくても良いんです。情熱を持って自分が楽しく働けることが、まずは入り口。私はそういう観点で就活をしましたし、それで正解だったと思っています。その向こうに社会があるということは、働きながら徐々に見えてくるものだと思っています。

丹波　「良い仕事」は、自分にとってと社会にとってで、実は違うものかもしれませんね。自分軸で私が大切にしたいのは、人生の大切な時間と労力を捧げるに値すること。納得ができること。私の場合はさらに、「小さくても社会に良き変化を生み出したい」という欲求がありますが、それは人それぞれで良いと思います。それと、自分が成長できることも大事だと個人的には思います。

Company Information

100年先に続くバリューを、日本から

デロイト トーマツ コンサルティングは、全世界150カ国に約30万人のプロフェッショナルを擁するデロイトの一員として日本のコンサルティングサービスを担い、提言と戦略立案から実行まで一貫して支援するファームです。クライアントの持続的で確実な成長を支援するコンサルティングサービスはもちろん、社会課題の解決と新産業創造でクライアントと社会全体を支援します。具体的には、コンシューマーサービス、資源エネルギー、金融、ライフサイエンス&ヘルスケア、製造、パブリックセクター、建設・不動産、テクノロジー・メディア・通信などの幅広い業界のクライアントに対して、企業戦略・事業戦略、組織変革、CFOサービス、オペレーション変革、M&A、人事組織などのサービスを提供しています。

会社概要

社名／デロイト トーマツ コンサルティング合同会社　英文社名／Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.
略称／DTC　設立／1993年　資本金／500百万円　代表者／佐瀬 真人
本社所在地／〒100-8361 千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビルディング